

I 研究主題

読む力を高める国語科学習指導の創造
 ～基礎・基本を身に付け、豊かに表現できる子どもを目指して～

II 目指す子ども像

目指す子ども像

文章に書かれたことを感じたり、想像したりできる子ども。

文章の内容や関係を理解し、友達と考えを交流する中で、読み深めることができる子ども。

文章がすらすら読め、読書に親しむことができる子ども。

III 研究の仮説と視点

教育の今日的課題	研究主題	児童の実態
	読む力を高める国語科学習指導の創造 ～基礎・基本を身に付け、豊かに表現できる子どもを目指して～	
	目指す子ども像	
	研究の仮説	
	仮説1 読む力を高めるための基礎・基本を明確にし、指導法や指導に生かす評価のあり方を工夫するならば、児童一人一人が読む力を身につけることができるのではないか。 仮説2 音読や読書への興味・関心を高める指導の在り方を工夫するならば国語に対する関心や意欲が高まり、読む力をつけることができるのではないか。	
研究の視点と内容		
1年目(20年度)	2年目(21年度)	3年目(22年度)
読む楽しさ【読む】	読みとるおもしろさ【考える】	表現する喜び【書く・伝え合う】
本や文章を音読できる力 【研究内容】 1 音読の工夫 2 文字力の向上 3 読む力の実態分析 4 学習のしつけ 5 読書活動の推進	説明的・文学的な文章を解釈できる力 1 学習の進め方の工夫 ・学習過程の工夫 ・指導計画の工夫 2 語彙力の向上 3 読書活動の推進	文章を読んで自分の考えを持ち、交流できる力 1 読む力から書く力・伝え合う力につなげる指導の工夫 2 他教科と関連を図った学習の展開 3 読書活動の推進

合 言 葉

小さいことからコツコツと子どもたちのためにみんなで取り組もう

〈仮説1〉

1 学習の進め方の工夫

(1) 説明的な文章・文学的な文章に関する授業の進め方についての研究

①学習過程の工夫

- ・ 身につける時間の設定
- ・ 学習の方法の確認
- ・ 音読を2回以上設定
- ・ 一人調べの時間の確保
- ・ 読み取っていく過程で、読みの深化が図れるような発問の工夫
- ・ ワークシートの作成と活用のあり方
- ・ 発表形態の工夫（ペア、グループ、全体など）（小黒板・短冊・拡大図など）

②指導計画（学習計画）の工夫

- ・ 見通しをもった学習計画を立てる。
- ・ 実態に合わせ弾力的に時数を確保する。
- ・ 学習計画を児童と共に作り、学習への関心を高め学習に主体的に取り組ませる。

2 語彙力の向上

(1) 国語辞典の活用によって語彙力を高める。（辞書の活用）

(2) 読字力の向上

- ① 板書は漢字をなるべく使う。（1学年上の漢字など）
- ② 熟語を数多く学習する。（教科書の巻末の活用）

〈仮説2〉

1 音読活動の充実

- ・ 授業の中で2回以上の音読活動を取り入れる。
- ・ 家庭学習の中に音読を入れ、【すらすら読みカード】を活用し、音読の向上を図る。

5 読書活動の推進

- ・ 年間100冊以上の読書冊数を目標として読書活動に取り組む。
- ・ 親子読書など家庭との連携を図る。（毎月23日）
- ・ 朝活動「読書タイム」（月～木 10分間）の充実。
- ・ 年3回の全校読書集会を実施し読書への関心を高める。